

トマトの栽培法

2011/10/10

植えつけの準備

堆肥などの有機物を多く出来るだけ早い時期に施し深く耕す。石灰を多めに、またIB化成などのゆっくり効く肥料を主体に元肥として施用する。うね立ては排水をよくし、根の張る範囲をひろげるために行うものと考え、高うねとし、また溝は水平にするとうい。

植えつけ

露地栽培では平均気温が15℃以上になり、晩霜の心配がなくなったら晴天無風の日を選んで植えつける。株間は35～45cmとし、植え穴には数日前にたっぷりかん水しておき、根が乾いた土に触れて痛んだり、植えつけ後の多量かん水で地温を下げたりすることのないようにする。また、トマトの花房はすべて第1花房と同じ方向に着生するので、花房が茎と支柱の間にはさまれることのないようにすることと、夏の強い西日で果実が日焼けをおこさないように、花房を北から東に向けて植えつけることが大切である。

植えつけ後の手入れ

植えつけ後、支柱を立ててしっかりした葉柄の下で、茎の肥大に余裕をもたせて8の字形に結んで誘引する。各節に出るわき芽は小さいうちに摘みとり、1本仕立として主幹の生長を助ける。普通5～6段の花房まで収穫するので、最上段花房(5～6段)の果実の日焼けを防ぐために上に2～3棄残して摘芯する。1花房にたくさん着果したときは、ピンポン玉大のころに大きな形のよいものを残して他は摘果する。追肥は3～4回に分けて株間に施す。1番栗の着果まではチツ分を控えること(元肥の窒素分が多いと着果しない)。梅雨前にうねの上にワラ、刈り草などを1～2cmの厚さに敷きつめ、雑草の発生や土が固まるのを防ぐ。また、夏の乾燥期には日中をさけて、平らに作った溝にうね間かん水して果実の肥大を助ける。

収穫

一般に開花後50～60日で成熟するが、早どりは禁物で、果実がまっ赤に熟れてからもぎとる。

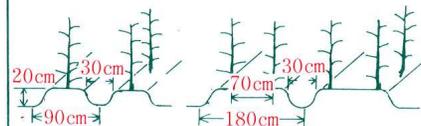
日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店

※一部又は全部の引用を禁止いたします

1. うね作りと株間・条間

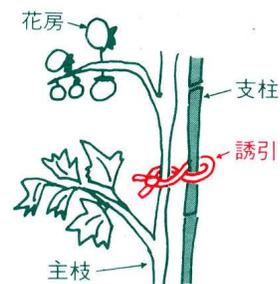
① 1条植え

② 2条植え



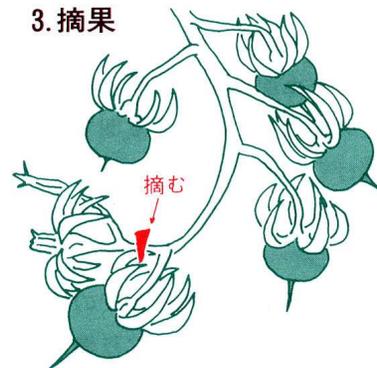
- 日当たりを考慮して広めにとるようにする。
- 株間は1条植え、2条植え共35～45cm間隔とする。

2. 誘引の方法



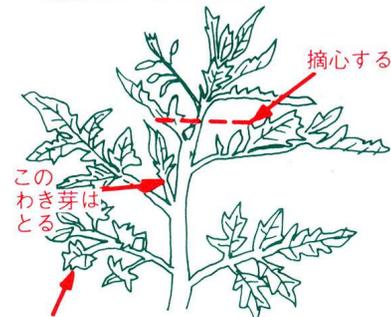
細いヒモで8の字形に余裕をもたせてくくる。

3. 摘果



結果したら、草勢を見ながら摘果する。幼果を多く残すと、果が大きくなり少ないと、大きいものがとれる。花房の中で、生育の遅れているものや、奇形のを摘みとる。

4. 摘心のしかた



咲いている花房(5～6段目)

収穫予定の最上段花房の上2～3葉残して摘芯する。